

ま え が き

少子化傾向が続いています。平成10年には合計特殊出生率が過去最低の1.38となりました。その要因の一つに子育ての困難性や負担感があります。同じく平成10年の児童虐待による児童相談所への相談件数が過去最高の6,932件となり、平成2年の1,101件からおよそ6倍になっています。しかも乳幼児の虐待がほぼ半数を占めています。この数値に現代の親が抱える子育ての苦悩や困難性を読みとることができるのです。

こういった時代状況の中で、幼稚園教育によせられる親や社会の期待はますます大きくなり、以前とは異なった教育課題を担うようになってきています。教育課程審議会最終答申を受け、幼稚園教育要領も一昨年12月に約10年ぶりに新しく告示され、小中学校にさきがけて、本年4月から施行されています。国レベルでの教育要領改訂を念頭におきながらも、私たちは目の前にいる現実の子どもに対応した保育を大切にしたいと考えています。

子どもは、とくに幼児は日々変化していきます。子どもの実態に柔軟に対応していくカリキュラムの創造や保育者の指導性が求められています。こういった自覚にたって、本園では保育実践と研究を重ねて参りました。

昨年度、「友だちとかかわり合いながら創る生活」を新しいテーマにいたしました。本年もこのテーマで研究を継続しています。二年目とはいえ、まだまだ自信をもって報告する成果を引き出したとは言えません。しかし、この二年間、子どもの事実に向き合い、真摯な議論を積み重ねてきました。そして、子どもの姿から多くのことを学んだことも大きな成果でした。この研究発表の場で、みなさん方からご意見やご指摘を頂きながら、私たちが見えていなかった部分、不十分な内容を補い、修正・発展させたいと考えております。そして、研究で学んだ成果を子どもたちにかえしていきたいと思っております。どうか忌憚のないご意見、ご指摘を頂きますようお願いいたします。

最後になりましたが、本研究のためにご指導下さいました先生方、ご来会の先生方にこの場を借りて御礼申し上げます。

平成12年6月

金沢大学教育学部附属幼稚園長 諸 岡 康 哉